

CHIBA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

Chiba Tech News

No_708

2026年7月号

千葉工業大学

入試広報部

〒275-0016

千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号

TEL 047(478)0222

FAX 047(478)3344



グレードアップされた クリーンルーム 増設決定

【2頁】 クラス 1000 のクリーンルーム増設設置を
理事会で決定

【3頁】 学生が AI で社会課題に挑む

【4頁】 はやぶさ 2 小惑星トリフネの姿を高速
フライバイで捉えた

【6頁】 大分県立国東高等学校と包括連携協定を
締結

【7頁】 本学の学びを体感 6 月オープンキャンパス
/「宇宙・半導体工学部」設置届出書を文部科学

省へ提出

【8頁】 見えない分子を、手のひらの学びへ工学
部 応用化学科 山本典史教授が日本コンピュータ
化学会の令和 7 (2025) 年度学会賞を受賞

【9頁】 脳に学ぶ AI、「デジタル脳」へ情報変革科
学部 情報工学科信川 創教授が挑む、医療と高効
率 AI の接点

【10頁】 令和 9 (2027) 年度 学部入試全日程確定

【11頁】 就職・進路支援便り

【12頁】 学生寮 避難訓練・運動会 / 船橋市消防局
パンフレット作成

【13頁】 受賞おめでとうございます! / 新任紹介

【14頁】 千葉工業大学 決算(令和 7 年度)を承
認/学生共済会 予算、決算を承認/「いっそ、AI
を総理に。」ブランディング広告が第 74 回朝日
広告賞「朝日新聞特別賞」を受賞

クラス 1000 のクリーンルーム 増設設置を理事会で決定

半導体工学・電子工学・材料工学などの 教育・研究環境を拡充

複数の管理水準を備え、 清浄環境は次の段階へ

令和 8（2026）年 7 月理事会にて、新たにクラス 1,000 のクリーンルームを増設することを決定した。今回の決定により既に設置・稼働しているクラス 10,000 対応のクリーンルームと併せて複数の管理水準の清浄環境を整備することになる。

先端技術を支えるクリーンルーム

クリーンルームは、空気中の微粒子を一定以下に管理し、精密な実験・実習や研究を支えるための施設である。半導体をはじめとする先端分野では、目に見えない微粒子が試料や加工工程に影響を及ぼすため、温度・湿度や空気の流れ、入退室管理まで含めた高度な環境制御が求められる。こうしたミクロレベルの環境制御は、半導体分野だけでなく、電子工学や材料工学など幅広い工学分野でも重要性が高まっており、宇宙・半導体工学科以外の学科でも使用することが可能となっている。

本クリーンルームは、これらの教育・研究を支える共通基盤として、学生は、実践的な学びを通して専門技術に触れ、安全性が確保された環境のもとで研究に取り組むことにつながる。

さらに増設して整備することにより、継続的に利用できる教育・研究環境を学内に確保し、新たな実験・実習への挑戦を促すとともに、研究分野間の連携を深め、新たな研究成果の創出につながるなど、実践的な人材育成と研究力の向上に寄与することが期待される。

清浄環境、次の段階へ

令和 8（2026）年 2 月に完成した既設のクリーン



本学既設のクリーンルームでの学生の実験（参考写真）

ンルームでは、宇宙・半導体工学科 2 年生の宇宙・半導体・メカトロニクス総合講義演習において、学生がフォトリソグラフィ法による、半導体デバイス製作実験などに取り組んでおり、教育・研究基盤として本格的な運用を開始している。今回、さらに新たな管理水準の清浄環境が拡充されることは、将来に向け重要となる工学分野の教育・研究環境への整備となり、先端研究をより高いレベルへと発展させ、未来を担う技術者・研究者を育成し、社会の発展に貢献しゆく、未来へ向けた、さらなる一歩となる。

（参考：増設するクリーンルームの特性について）

今回増設されるのは、クラス 1,000 のクリーンルームである。クリーンルームの清浄度は、空気中に浮遊する微粒子の数を基準に分類される。粒径 0.5 マイクロメートル以上の微粒子が既設のクリーンルームでは空気 1 立方フィート※当たり 1 万個以下を基準としているのに対し、新たに増設するクラス 1,000 のクリーンルームは、浮遊粒子を 10 分の 1 となる 1,000 個以下に抑えた、さらに清浄度の高い環境となる。また、清浄度と共に、研究内容や工程に応じたエリア構成、設備、運用を組み合わせることで、質の高い研究を支える基盤となる。※1 フィート＝約 30cm

学生が AI で社会課題に挑む

「web3/AI 概論」 成果発表会 企業も評価した「CHIBATECH PROTOTYPE」

令和8(2026)年7月16日、総合科学特論「web3/AI 概論」の第4期最終成果発表会「CHIBATECH PROTOTYPE」が開催された。学部生・大学院生・社会人を対象に約200人の受講生が4月から3か月間、AI エージェント開発に取り組み、その成果を21件の展示と受講生代表8人によるピッチで発表。企業関係者らが学生と直接対話し、実社会への応用可能性を確かめた。

「つくりながら学ぶ」実践型授業

web3/AI 概論は、学生と社会人が共にAI、AI エージェント、web3 を実践的に学ぶプロジェクト型授業である。令和8(2026)年度は、AI エージェントとの協働を中核に据え、社会や組織の課題を自ら見つけ、技術を選び、解決策を形にする次世代人材の育成を目指している。全13回の講義では、AI と対話しながらソフトウェアを生み出す「バイブコーディング」に加え、AI エージェントの仕組み、セキュリティ、活用事例までを扱った。講義で知識を得るだけでなく、日常の不便や疑問を出発点に試作品をつくり、公開して意見を受け、方向転換を重ねながら改善する。自らの課題を「バグ(不具合)」と捉え、試作、利用者の反応、共創を経て最終版へ進む設計である。学生・社会人・研究者らが立場を越えて教え合うコミュニティと、独自トークンを用いたゲーミフィケーションも学びを支える。また、受講者全員に Claude アカウントを配布し、Claude Code を使用して課題を進めた。

21の展示、8人のピッチ

会場には、ポスター発表やプロダクト展示ブースとして、カフェの売上・日報・シフト情報をAI で連携する業務支援、仕訳帳の異常を確認するシステム、中小企業向け需要予測、子どもの表



集合写真



ブース

現を尊重するアート教室アプリ、ゲーム機のコントローラーでAI 開発を操作する仕組みなど、多彩な成果が並んだ。来場者は画面や実機を確かめながら開発者へ質問し、スマートフォンの「いいね」機能で応援した。受講生が自主開発したバーチャル会場も用意され、オンライン参加者も展示や発表を共有した。企業の採用担当者らとの対話は、技術の新しさだけでなく、誰のどの課題をどう解くのかを学生が言葉にする機会となった。

「実務に直結」

当日来場された沖電気工業株式会社の相場信夫担当部長は「実務にすぐ直結するようなことをされているので、非常に期待しています」と話した。実際の業務との連携を思わせる成果もあり、学生にも声を掛けたという。

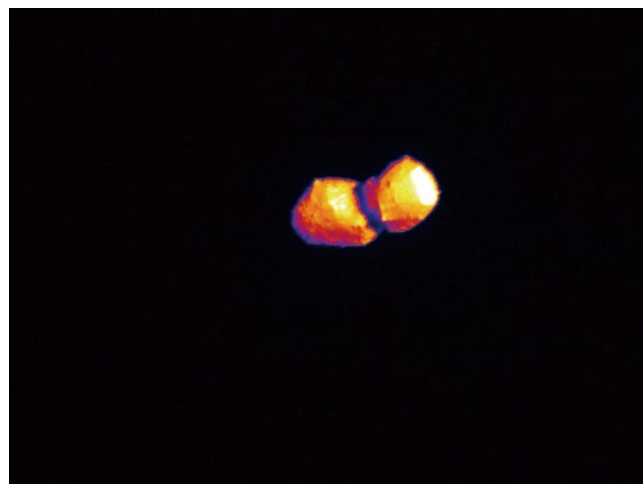
AI に答えを委ねるのではなく、人が問いを立て、AI と共に試し、社会へ示す。企業から届いた率直な評価は、受講生の成果を次の実践へつなぐ手応えとなった。CHIBATECH PROTOTYPE は、学びを教室内で完結させず、社会との対話によって磨く本学の実践教育を鮮やかに示した。

はやぶさ 2 小惑星トリフネの姿を 高速フライバイで捉えた

惑星探査研究センター（PERC）が支えた 拡張ミッション初の小惑星探査



望遠の光学航法カメラ（ONC-T）で撮影された小惑星「トリフネ」。©JAXA、東京大学、千葉工業大学、東京科学大学、産業技術総合研究所、パリ天文台、カナリア天体物理研究所



中間赤外カメラ（TIR）で撮影された小惑星「トリフネ」。トリフネまでの距離：約 10km。©JAXA、前橋工科大学、千葉工業大学、会津大学、北海道教育大学、産業技術総合研究所

高速フライバイで画像・サイエンスデータ取得に成功

小惑星探査機「はやぶさ 2」は令和 8（2026）年 7 月 5 日 18 時 30 分（日本時間、誤差 ± 1 秒）、地球から約 1 億 km 離れた小惑星「トリフネ」のフライバイに成功した。JAXA は翌 6 日、同機が 18 時 35 分に地上で正常状態と確認され、画像とサイエンスデータの取得にも成功したと発表した。フライバイとは、探査機が天体の近くを通過しながら観測する手法である。今回の探査は、リュウグウ試料を地球に届けた後に継続された拡張ミッションの最初の小惑星探査となる。

トリフネは地球最接近小惑星の一つで、今回の観測で平均直径は約 540m 程度と推定された。はやぶさ 2 は、トリフネへの接近中、まず 6 月半ばから望遠の光学航法カメラ（ONC-T）で観測を開始し、6 月 20 日には機上からトリフネを確認した。

7 月 5 日の最接近直前には、ONC-T に加え、近赤外分光計（NIRS3）、中間赤外カメラ（TIR）、レーザ高度計（LIDAR）による観測を実施した。公開された ONC-T 画像は 18 時 29 分 59 秒、TIR 画像は 18 時 29 分 58 秒に撮影されたもので、TIR 撮影時のトリフネまでの距離は約 10km である。

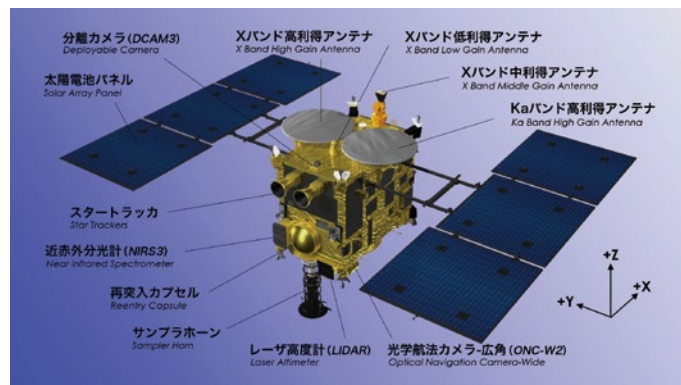
この成果の価値は、新たな小惑星の姿を明らかにする惑星科学だけにとどまらない。はやぶさ 2 は本来、移動しない対象を観測するように設計された。今回、相対速度秒速 5.3km でトリフネの中心から 744m（表面からは約 400m）を通過するという、世界最短距離でのフライバイを成功させたことは、世界トップレベルの高精度の軌道誘導・観測技術の証左である。JAXA は、将来の小惑星衝突リスク低減に資するプラネタリーディフェンスの観点からも重要な取り組みとしている。



はやぶさ2機体の概要
(機器名称図・側面1)。

©JAXA

はやぶさ2機体の概要 (機器名称図・側面2)。©JAXA



はやぶさ2

トリフネ・フライバイのイメージCG © 池下章裕

一瞬の観測を支えた、PERCの技術

惑星探査研究センター (PERC) は、はやぶさ2のほぼ全ての搭載観測機器の開発と運用、成果創出に参画してきた。千秋博紀副所長・主席研究員はレーザ高度計 (LIDAR) の他にも近赤外分光

計 (NIRS3) のデータ処理や、中間赤外カメラ (TIR) のための数値モデルの開発も担当している。また、小惑星の観測や衛星の運用に必要な不可欠な光学航法カメラ (ONC) の開発と観測計画の検討、得られたデータの解析に山田学上席研究員が大きな役割を果たしている。

千秋 博紀 PERC 副所長・主席研究員 コメント

「うまく行く保証はないけれど成功したら世界初という野心的な観測を計画し、実際にデータを確認することができました。

画面を流れる数字から有効データらしき数字を発見したときは驚きました。冷静を装いつつ暗算をして、よし、これはホンモノのようだぞ、と。不安、驚き、安堵、達成感。惑星探査の醍醐味をギュッと凝縮したような経験をさせてもらいました。この成功は多くの人たちと協力し、支えられて達成したものです。素晴らしいチームに感謝。」



千秋 博紀 PERC 副所長・主席研究員

山田 学 PERC 上席研究員 コメント

「光学航法カメラ (ONC) で撮影したトリフネの写真を一番最初に見ることができ、計画通りにフライバイと観測がうまくいったことに感慨ひとしおでした。拡張ミッション「はやぶさ2 #」のチーム長である JAXA・三舂さんにトリフネの姿を見せた時の驚きと喜びの表情も印象的でした。その日のうちに多くのプロジェクトメンバーと写真と喜びを共有できたことも嬉しかったです。2031年まで続くはやぶさ2の最終目標天体への旅も応援していたけると幸いです。」



山田 学 PERC 上席研究員

くにさき 大分県立国東高等学校と 包括連携協定を締結

千葉工業大学（理事長：瀬戸熊 修）は、国東高等学校（大分県国東市／校長：矢部英明）と包括的な連携に関する協定を締結するため、令和 8（2026）年 7 月 1 日（水）国東高等学校にて協定締結式を執り行った。協定期間は令和 8（2026）年 7 月 1 日から 3 年間とし、継続的な連携を予定している。

国東高等学校は令和 6（2024）年度に SPACE コースを開設し、宇宙をテーマとした探究学習を通じて、地域や社会の課題を発見し、解決へ導く力を養っている。

本協定により、本学の専門的知見や研究環境を活用した学習機会を提供し、高校生の宇宙・工学分野への理解と関心を高めるとともに、教育・研究および文化の発展、探究活動、人材育成、入学者選抜などの分野で相互に連携・協力する。

双方の特色を生かした取り組みを進めることで、大分県や九州地域の産業を担う次世代人材の育成と、地域社会発展への貢献を目指す。



瀬戸熊修理事長と矢部英明校長（右）

本学の学びを体感 6月オープンキャンパス

6月21日（日）、津田沼キャンパスでオープンキャンパスを開催した。当日は高校生や保護者ら2,944人が来場し、学科説明や体験企画などを通して、本学の教育や研究への理解を深めた。

学科による総合型選抜説明会や学び体験、個別相談のほか、入試ガイダンス、学部学科全体説明会、宇宙・半導体工学部（令和9（2027）年4月設置予定）説明会を実施した。また、キャンパスツアーや学生トークライブ、在学生にきいてみようなど、在学生と交流できる催しも行われ、来場者はキャンパスの雰囲気に触れた。

このほか、災害対応ロボットや人工衛星開発現場、音環境実験スタジオ、工作センター、クリーンルームなどの研究施設・実験設備を公開した。



学部学科全体説明会



チバニーに迎えられ、会場へ向かう来場者

学食ランチ無料体験も実施され、学生生活を身近に感じる機会となった。

参加者数は、入試ガイダンスが1,122人、学部学科全体説明会が577人だった。学食ランチ無料体験は2,891人が利用した。このほか、各種企画にも多くの来場者が参加し、会場は終日にわたりにぎわいを見せた。

当日のアンケート結果からは「学科説明会が分かりやすかった。」「学び体験を通して研究内容への理解が深まった。」「在学生や教員の説明が丁寧に親しみやすかった。」などの声が寄せられ、キャンパスの雰囲気や学びを実感する機会となった。

次回のオープンキャンパスは、8月1日（土）に新習志野キャンパスで開催。

「宇宙・半導体工学部」設置届出書を文部科学省へ提出

近年の宇宙産業及び半導体産業を取り巻く環境変化や社会的要請を踏まえ、既設の宇宙・半導体工学科と先端材料工学科を発展的に改組し、宇宙・半導体工学部を設置する。既に、令和8（2026）年7月23日に文部科学省高等教育局へ設置届出書を提出し、令和9（2027）年4月1日の開設に向けて、学生募集活動を開始している。

見えない分子を、手のひらの学びへ

工学部 応用化学科 山本典史（やまもと・のりふみ）教授が 日本コンピュータ化学会の令和7（2025）年度学会賞を受賞

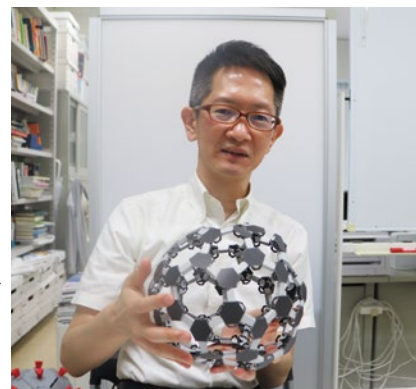
コンピュータで分子を探す

令和8（2026）年6月5日に公表された日本コンピュータ化学会の令和7（2025）年度学会賞を工学部応用化学科の山本典史教授が受賞した。評価されたのは、コンピュータを用いて分子のふるまいを読み解く計算化学の研究と、紙製分子模型「PuzMol（パズモル）」を用いた化学教育・普及活動である。

山本教授の研究は、ビーカーやフラスコを使う実験とは異なる。「応用化学では実験室で薬品を混ぜたり、装置で分子を解析したりする先生が多いと思います。私はそういう実験は全くしてなくて、全部コンピューターを使って解析することをやっています。」薬をつくる際には、標的となるタンパク質に合う分子を探す必要がある。「タンパク質にピタッと合まるような小さな化合物を作ろうと思った時に、コンピューターの中でどんな形の分子ならはまるかを予測することができます。」候補は膨大で、実験だけで一つずつ確かめるには限界がある。山本教授は「お薬探しは、鍵と鍵穴という例えが分かりやすいです」と語る。計算の力で、薬剤耐性インフルエンザの仕組みや、アルツハイマー病に関わるタンパク質の凝集など、生命現象の理解に迫ってきた。

紙が分子になる瞬間

もう一つの柱がPuzMolである。発想の原点は、高校生向けに研究成果を伝えてきた約10年のワークショップにあった。分子模型は学びに有効だが、高価で、参加者全員が自由に使い、持ち帰ることは難しい。「化学を伝えるツールとして、値段が高い分子模型の代わりに何か作れないかと考えていました。」転機はコロナ禍の家庭での時間だった。「子どもとペーパークラフトを作っていました。立体的に紙を折り曲げていったら、分子模型も作れるんじゃないかなと思って作ったの



炭素がサッカーボール型につながったC60フラレンも作れます

工学部 応用化学科 山本典史 教授



様々な分子の
PuzMol

がこれです」。紙のパーツを差し込み、開くと、原子と原子が結ばれる。水分子からフラレンまで、手を動かすことで見えない構造が立ち上がる。

化学を嫌いにさせないために

PuzMolは大阪市立科学館、サイエンスアゴラ、令和7（2025）年の大阪・関西万博などでも活用され、学校現場にも可能な限り無償で届けられてきた。背景にあるのは「化学を嫌いにしないであってほしい」という思いである。小学校では理科好きでも、中学校で原子や分子、化学式に出会った瞬間、学びが遠くなる子どもは少なくない。PuzMolはその距離を縮める道具だ。「手を動かしながら、おしゃべりしながら学ぶことができます。原子という見えないけど存在する、そのつづつが、だんだん見えるようになってくる、イメージが膨らんでくると思います」。知識を押しつけず、好奇心を守りながら次の学びへ導く。紙の小さな模型は、子どもの手の中で未来の研究者へつながる入口となる。

脳に学ぶ AI、「デジタル脳」へ

情報変革科学部 情報工学科

信川 創 (のぶかわ・そう) 教授が挑む
医療と高効率 AI の接点

脳をモデル化し、症状の理由へ迫る

情報変革科学部 情報工学科の信川創教授は、脳の働きを数理モデルとして解き明かす「計算論的神経科学」の研究者である。科学研究費助成事業（科研費）に研究代表者として採択され、脳の数理モデルと人工知能（AI）を結ぶ研究を進めている。令和 8（2026）年 7 月、研究の出発点と広がり聞いた。

研究の原点は、神経細胞（ニューロン）が電気的なスパイクをやり取りして情報を伝える仕組みにある。学生時代から取り組んだ数理モデルと、脳波（EEG）や脳磁図（MEG）による統合失調症、アルツハイマー病、自閉症などの解析が結びつき、現在の柱となった。「デジタル脳を作っています。」脳の構造、活動、認知機能の変化をモデル上でつなぎ、なぜ症状として現れるのかを探る。診断や創薬への展開も見据える。

創発を追う研究

科研費による研究では、脳の注意機構を高効率な AI へ取り込む試みと、脳波データから脳機能の「創発」を読み解く試みが重なり合う。創発とは、多数の要素が相互作用し、個々にはなかった機能が全体として立ち現れる現象である。神経細胞を一つずつ見てもわからない働きが、ネットワークとして姿を現す。その仮説を数式で表し、AI にも組み込むことで、脳、AI、医療をつなぐ道が開かれる。

リザーバーが示す省電力 AI

もう一つの柱が、リザーバーコンピューティングである。脳の神経活動は入力に応じて豊かな時空間反応を返す。この反応を「ため池（リザーバー）」に見立て、出力部分だけを学習させれば、全体を繰り返し調整する深層学習に比べ、計算負

情報変革科学部
情報工学科
信川 創 教授



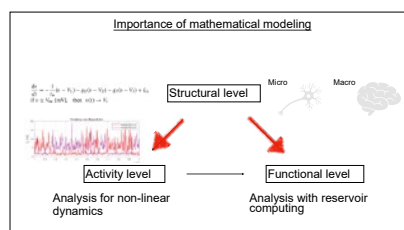
荷を抑えられる。「脳で見られる仕組みを AI に組み込めば、AI の性能が上がるのではないかと、いう研究です」。小さな消費電力で高度な認知を実現する脳に学ぶことは、AI の電力問題に向き合う基盤技術となり得る。

教育と研究を分けない

研究は学生の成果にも支えられている。特別研究員に採用される学生も育ち、国際会議発表、原著論文出版など、客観的に評価される実績を積み上げている。博士課程の学生による研究は「Scientific Reports」に、修士課程の学生による ADHD の視線や瞳孔の複雑さに着目した研究は「PLOS Mental Health」に掲載された。信川教授は「これは学生の業績です、ということははっきり伝えます」と強調する。

自分の頭で考える

生成 AI 時代に、信川教授が学生や高校生へ伝えたいことは明快だ。「自分の頭で、きちんと考えられるようになってほしい。」AI から答えらしきものを受け取るだけでは、本当に理解できたかは判断できない。「AI を使う前に、自分の力で理解できたという体験を、たくさん積んでほしい。」脳を知り、AI をつくり、医療へつなぐ。その挑戦の根には、自分で考え抜く喜びがある。



脳を数理モデルでとらえる研究の考え方。神経細胞から脳全体まで、構造・活動・機能の各レベルでつなぎ、非線形ダイナミクスやリザーバーコンピューティングで脳の働きに迫る。

令和9（2027）年度 学部入試全日程確定

試験種別	願書受付期間	試験日	合格発表日
総合型(創造)選抜 全学部・全学科入試 書類審査・課題演習・面接	9/11(金)～9/25(金) (消印有効)	10/10(土)・11(日)	11/2(月)
学校推薦型選抜(指定校制)【一般高校・専門高校】 全学部・全学科入試 書類審査・小論文(出願書類と併せて提出)・面接	11/1(日)～11/6(金) (消印有効)	11/15(日)	12/1(火)
学校推薦型選抜(帰国生徒指定校制) 全学部・全学科入試 書類審査・小論文(出願書類と併せて提出)・面接	10/22(木)～11/6(金) (消印有効)		
学校推薦型選抜(公募制) 全学部・全学科入試 書類審査・読解力テスト・面接	11/1(日)～11/6(金) (消印有効)	11/22(日)	
学校推薦型選抜(専門高校) 全学部・全学科入試 書類審査・読解力テスト・面接			
特別選抜(外国人留学生) 全学部・全学科入試 書類審査・面接・日本留学試験結果	9/24(木)～10/1(木) (必着)	11/22(日)	12/1(火)
特別選抜(帰国生徒) 全学部・全学科入試 書類審査・小論文・面接	10/22(木)～11/6(金) (消印有効)		
特別選抜(社会人) 全学部・全学科入試 書類審査・小論文・面接			
編入学選抜(指定校制・高等専門学校) 全学部・全学科入試 書類審査・面接(3年次受入れ)	9/24(木)～10/1(木) (必着)		
編入学選抜 全学部・全学科入試 書類審査・小論文・面接(3年次受入れ)			
5教科基準点型入学試験(共通テスト利用) 全学部・全学科入試	12/22(火)～1/15(金) (消印有効)	1/16(土)・17(日) 大学入学共通テスト 本学個別試験なし	2/9(火)
大学入学共通テスト利用入学試験(前期) 全学部・全学科入試	12/22(火)～1/15(金) (消印有効)	1/16(土)・17(日) 大学入学共通テスト 本学個別試験なし	2/9(火)
大学入学共通テスト利用入学試験(中期) 全学部・全学科入試	2/5(金)～2/16(火) (消印有効)		2/22(月)
大学入学共通テスト利用入学試験(後期) 全学部・全学科入試	2/22(月)～3/3(水) (消印有効)		3/8(月)
A日程入学試験 試験日自由選択方式、全学部・全学科入試(同日併願方式)	12/22(火)～1/31(日) (消印有効)	2/1(月)・2(火)・ 3(水)・4(木)	2/9(火)
SA日程入学試験 大学入学共通テスト併用型、試験日自由選択方式、 全学部・全学科入試(同日併願方式)			
B日程入学試験 試験日自由選択方式、全学部・全学科入試(同日併願方式)	2/5(金)～2/16(火) (消印有効)	2/17(水)・18(木)	2/22(月)
SB日程入学試験 大学入学共通テスト併用型、試験日自由選択方式、 全学部・全学科入試(同日併願方式)			
SC日程入学試験 大学入学共通テスト併用型、CBT方式、 全学部・全学科入試(同日併願方式)	2/22(月)～3/2(火) (消印有効)	3/3(水)	3/8(月)
C日程入学試験 全学部・全学科入試(同日併願方式)	2/22(月)～3/3(水) (消印有効)	3/4(木)	

就職・進路支援便り

【27卒対象】千葉工大生のための就活サポート応援企画

オンライン開催

【9月卒業予定者も参加OK！マッチングイベント】

9月4日（金）13:00～15:00

IT企業やメーカーなど、本学学生を積極的に採用する企業3社の採用担当者が参加。

参加申込：就職システム「支援行事の参加予約」からお申し込みください。

※未予約での当日参加も可能です。

対面型学内開催

【本学積極採用企業5社によるマッチングイベント】

9月25日（金）12:00～16:30

会場：津田沼校舎 講義室（予定）

「千葉県で働きたい」「IT企業でエンジニアを目指したい」と考えている学生におすすめの学内イベント。本学学生を積極的に採用する企業5社の採用担当者が参加。

個別相談をご希望の方

個別で就職相談・非公開求人を紹介をします。

右記QRコードへアクセスの上、「登録フォーム」からお問い合わせください。



Hondaによる自動運転モビリティ試乗デモを開催

キャリア形成支援の一環として、Honda 株式会社協力のもと、自動運転モビリティ「CiKoMa（サイコマ）」の試乗デモおよびセミナーが6月18日、津田沼キャンパスで開催された。当日は、アバターロボットを活用した職場見学体験も実施され、多くの学生が参加した。

本企画は、Honda、就職・進路支援部、未来ロボティクス学科が連携し、本年1月から準備を進めてきたもの。当日は、キャンパス内に設けられたコースでCiKoMaの試乗デモを実施し、学生や教職員らが最先端の自動運転技術を体験した。

津田沼キャンパスは、歩行者が多く、一般道路とは異なる環境であることから、自動運転技術の

実証には高度な対応が求められる。実施にあたっては、Hondaの技術者が事前にキャンパス内のデータ取得や解析を重ね、安全な試乗デモの実施に向けた準備を行った。

また、アバターロボットによる職場見学体験が実施された他、2号館3階大教室で行われたセミナーではHondaフェローの安井裕司氏をはじめ、Honda R&Dの技術者が、自動運転技術の開発や将来のモビリティ社会に向けた取り組みについて紹介した。質疑応答では学生から多くの質問が寄せられ、予定時間を延長し活発な意見交換が行われるなど、学生にとって企業の最先端技術や研究開発の現場に直接触れる貴重な機会となった。



CiKoMaについて担当者から説明を受ける学生たち



アバターロボット職場見学の様子



若手技術者に質問する学生

学生寮 避難訓練・運動会

学生寮は6月13日（土）、防火・防災訓練と学生寮運動会を実施した。防災意識の向上と寮生同士の交流を目的に開催され、訓練には362人、運動会には377人の寮生が参加した。

防火・防災訓練では、大地震発生後に男子寮で火災が発生したことを想定し、寮南側の野球場への避難訓練と習志野消防署への通報訓練を実施した。避難完了までに要した時間は15分だった。災害時に迅速かつ冷静に行動するための手順を確認し防災意識を高めた。

訓練終了後には学生寮運動会を開催した。学生委員会の安藤雅和委員長（未来変革科学部デジタ

ル変革科学科・教授）のあいさつの後、寮生は男女別・居住フロア別のチームに分かれ、恒例の「リレー」や「障害物競争」、「二人三脚」などの競技で熱戦を繰り広げた。

企画委員長を務めた谷村光紀さん（工学部機械電子創成工学科4年）は、「今年の運動会は晴天に恵まれ、自身最後の運動会というだけでなく、現委員会メンバーと行う最後の行事でもありました。そんなイベントを準備から片付けまで大きなミスなく遂行できたことを嬉しく思っています。これもひとえに寮友会や大学関係者の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。」と振り返った。



避難訓練



恒例のリレー

船橋市消防局パンフレット作成

創造工学研究科デザイン科学専攻 國枝拓馬さん 修士2年（稲坂研究室）は、本学と包括協定を締結している船橋市の依頼で消防局の採用パンフレットのデザインを行った。同パンフレットは千葉県内102の高等学校と全国の専門学校へ配布された。デザインにあたってはUXD（User Experience Design）の手法を用いて、実際に消防訓練センターの取材や隊員へのアンケートを行うなど、消防隊の活動をわかりやすく伝えるデザインがなされている。



創造工学研究科 デザイン科学専攻
國枝拓馬さん 修士2年



船橋市消防局冊子

受賞者紹介

受賞おめでとうございます!



Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE)
2026 IEEE Transactions on Terahertz Science & Technology Best Paper Award

THz Communications and the Demonstration in the Thor-Backhaul Link

ひらた あきひこ
枚田 明彦教授

工学部・情報通信システム工学科

受賞日 2026.6.10

詳細は [コチラ](#) >>




日本海水学会
2026 年度 日本海水学会賞、奨励賞

製塩等の晶析で活用できる操作条件と凝集および純度の相関に関する研究

くどう しょうじ
工藤 翔慈准教授

工学部・応用化学学科

受賞日 2026.6.4

詳細は [コチラ](#) >>




日本沙漠学会
第 37 回学術大会 ポスター発表 理系部門
ポスター発表部門 若手研究者賞

粒子間隙流れの可視化と PIV 解析による ファインバブルの管摩擦抵抗低減機構の解明

ほしの かい
星野 可樹さん

工学研究科・応用化学専攻 修士 1 年
矢沢 勇樹研究室

受賞日 2026.5.30

詳細は [コチラ](#) >>




サイバーライフラインに関する分野横断型研究会
優秀ポスター発表賞

軽量 VLM の量子化による災害時 UAV 空撮画像の低レイテンシ道路異常検知に関する検討

かやなか ことね
茅中 琴音さん

先進工学研究科・知能メディア工学専攻 修士 2 年
宮田 高道研究室

受賞日 2026.6.16

詳細は [コチラ](#) >>




一般社団法人情報処理学会
マルチメディア、分散、協調とモバイル (DICOMO2026) シンポジウム・ヤングリサーチアワード

地域コミュニティの納得感を醸成する履歴反映型抽選システム「くじら」の提案

おおうら そら かわぐち まな
大浦 空さん、**川口 真奈**さん

大浦：先進工学部・知能メディア工学科 4 年、川口：工学部・電気電子工学科 4 年
大浦：今野 将研究室、川口：藤本 靖研究室

写真：大浦（右）、川口（左）

受賞日 2026.6.26

詳細は [コチラ](#) >>




一般社団法人情報処理学会
マルチメディア、分散、協調とモバイル (DICOMO2026) シンポジウム・ヤングリサーチアワード

香り印象の言語表現に基づく嗅覚的感性情報伝達のモデル化

ふじむら
藤村 りなさん

先進工学部・知能メディア工学科 4 年
森 信一郎研究室

受賞日 2026.6.26

詳細は [コチラ](#) >>




一般社団法人情報処理学会
マルチメディア、分散、協調とモバイル (DICOMO2026) シンポジウム・ヤングリサーチアワード

人の組み合わせに基づいた気づきの生成に関する研究

さいとう はるか
齊藤 陽香さん

先進工学部・知能メディア工学科 4 年
森 信一郎研究室

受賞日 2026.6.26

詳細は [コチラ](#) >>



所属・学年は受賞当時のものです。

新任紹介

研究員



Grisha Szep (ゼップ グリシャ)

上席研究員 (変革センター)

分野の垣根を越えて研究者が集まる、刺激的で開かれた環境だと感じています。千葉工業大学が、AI の進歩にも揺るがない「教育から労働へ」のキャリアパスを築けるよう貢献したいです。

千葉工業大学 決算(令和7年度)を承認

本学理事会・評議員会で、
令和7年度決算を承認した。
令和7年度事業報告については、
本学 Web サイトにて公開。

詳細はコチラ



学生共済会 予算、決算を承認

学生共済会理事会で
令和8年度学生共済会予算案、
令和7年度決算を承認した。
詳細については
本学 Web サイトにて公開。

詳細はコチラ



「いっそ、AI を総理に。」ブランディング広告が 第74回朝日広告賞「朝日新聞特別賞」を受賞

本学のブランディング広告「いっそ、AI を総理に。」が、第74回朝日広告賞新聞広告の部で「朝日新聞特別賞」を受賞した。授賞式は7月9日、浜離宮朝日ホール（東京都中央区）で行われた。

受賞した広告は、「いっそ、AI を総理に。」というキャッチコピーのもと、2025年11月27日、全国紙に掲載された15段カラー広告である。AI時代における期待と不安を題材に、政治とテクノロジーという社会的テーマを通して、人間と科学技術のあるべき関係性を問いかける内容となっている。

審査では、「世界文化に技術で貢献する」という本学の建学の精神を、現代社会が抱える課題や未来への展望と結び付け、社会性、時代性、ブランドメッセージを高いレベルで融合させた点が高く評価された。また、読者に深い思索を促すメッセージ性とデザイン性を兼ね備えた作品として、

朝日新聞特別賞にふさわしい優れたクリエイティブであるとの講評を受けた。

なお、本広告は本年4月に毎日新聞社主催・経済産業省後援の「第93回毎日広告デザイン賞」でも作品賞を受賞している。



Chiba Tech News ご愛読の皆様へ

～デジタル版と A4 判（見開き A3 判）へ移行のお知らせ～
入試広報部

Chiba Tech News は
5月号より全面デジタル化、
6月号よりお手元で印刷可能な
A4判（見開き A3判）となりました。

今後も冊子での送付をご希望される場合は、下記のいずれかの方法にて、
入試広報部までお申込みいただけますようお願い申し上げます。

千葉工業大学 入試広報部

① 電話：047-478-0222

② メール：cit@chibatech.ac.jp

③ QRコード ※送付先のお名前・ご住所とご子女のお名前・学生番号をお知らせ下さい。



これからも Chiba Tech News をご愛読いただけますよう宜しくお願い申し上げます。